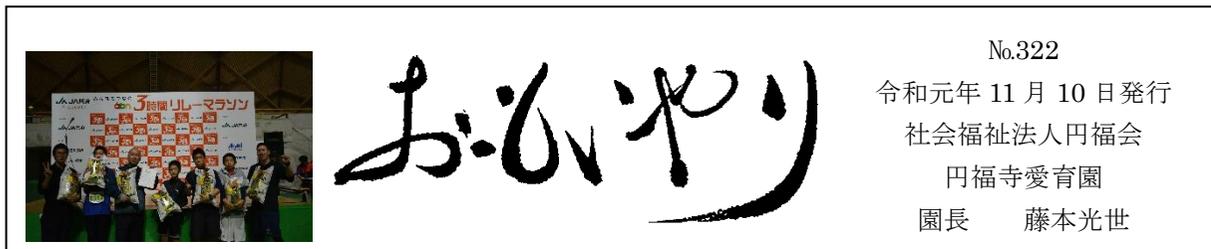


<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

チームワークの勝利！リレーマラソンで優勝しました！！



園長 藤本光世

台風 19 号

超大型で超強力な台風 19 号により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

台風が長野県に襲来した 10 月 12 日夜の当園の様子は、「圓福」の「敬愛信」に書いた通りです。千曲川は上流域の大雨によって増水し、横田地区では水位が堤防すれすれになり、越水して決壊の恐れがある（これまでで予測できない状況）と言われた、不安で緊迫した夜の様子を思い出します。

皆さまからご心配の電話等をいただきましたが、円福寺愛育園は無事でした。ありがとうございました。近くには、床下、床上浸水のお宅があり、車がだめになったお宅もあり、あるいは千曲川決壊現場のお宅の様子を見ると、無事であったことは僥倖であり、被災地の皆さまへ支援をしなければならぬ思いに駆られます。どうか、力を出して再建再興を果たしていただきたく念ずるものです。

愛育園の良い養育を確立したい

愛育園が落ち着いてきました。

朝のお参りや朝食の時に子どもたちが職員にべたべたくっついて、うれしそうにしている様子を見ると、私はうれしくなります。職員と子どもがすきんしっぷをとっている、職員の周りを何人もの子どもが囲んで親しそうに話している、子どもたちが職員を信頼し、職員と一緒にいることで心の安寧がある。安心している。なんと良いことなのでしょう。子どもにとって安心安全な空間がここにあります。

このような空間は、日々の努力により生まれると思います。そこに安住したら、無くなってしまふ。壊れてしまふ。子どもと良くかかわって、たくさん遊んで、でも大切なことは対話をして、振り返りをして常に良い生活を生み出してあげることが大切だと思います。それが出来つつあるのがうれしく思います。

そのために、日常生活の日課の充実とともに行事の充実は欠かせません。

今、愛育園祭の準備に取り組んでいます。職員は一生懸命です。体育館はジェットコースターを

(令和元年 11 月 10 日発行 月刊「円福」470 号付録)

作り、アーチを作り、書道パフォーマンスの練習で足の踏み場もありません。子どもが学校へ行っている日中に行くと、ある職員が一人で黙々と準備に勤しんでいます。子どもたちのために、見えないところで働いている職員は凄いなあと思います。最高の行事を創ろうと頑張っている職員の心が、子どもに響いて、子どもも最高の行事にしようと頑張ると思います。

良い循環を作ってほしいと願っています。

職員の成長

児童養護施設の仕事には、誰もができる仕事と、力を付けないとできない仕事があります。職員の力量のレベルでできる仕事が変わってきます。職員の給与は職階制で、私がこの仕事についてきたころは、どうして職階制なのか分かりませんでした。子育てなど、誰もができるのではないかと思っていました。でも今はよくわかります。力量がないとできない難しい仕事があるのです。だから、ホーム会議などで難しい仕事を議論するとき、職員にはできないことはできないと言いなさいと話します。ところが人にはプライドがあるので、「できない」と言うのは難しいのです。「できない」のにできると言ってやると失敗して、他の職員の仕事を増やします。「できない」と言葉に表すことがとっても重要なのです。それには本人の自覚と、職場の雰囲気が必要です。何でも言える職場、何でも分かりあえる職場、自分をさらけ出しても安心安全な職場こそ重要です。

ある難しい仕事がありました。子どもは職員を自分より上か下かで見ます。自分より上の職員がいなくなれば好き放題、やりたい放題、わがまま放題の生活ができます。施設はホテル化して、職員は子どものサーバントとなります。職員をこき使います。子どもが力のピラミッドの頂点に立てるのです。それは問題を抱えた子が一番欲するところです。だから、職員はそのような子と戦って、その子が上にならないように頑張らなければなりません。ところが、これは勇気がある。心が傷つけられる。体が傷つけられる。私は、戦国時代の戦いを例に話します。職員がその子にやられ、怖がって、他の職員の後ろに下がってしまうと大将が戦わなければならなくなり、大将がやられれば指導できる職員がいなくなってしまう。その会議の時に、その子に心を傷つけられ、痛めつけられ、かかわらないようにしていた職員が「自分は怖い。後ろに下がってほしい」とはっきりと言ってくれました。凄いなあと思いました。そして、その言葉の後で大きな仕事をしてくれました。とっても嬉しかったです。

このような経験を通して、職員は成長するのだと思います。

三時間リレーマラソン

今年も松本三時間リレーマラソンで優勝してくれました。台風の被害で練習ができなかったのに、それでも優勝してくれたことはとても嬉しく「万歳！」と心の中で叫びました。小学生も 6 位の好成績を収めました。優勝賞品お米 100 キロと、特別賞お米 14 キロ、そして小学生の特別賞シナノ

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ゴールド5キロを稼いできてくれました。みんなでおいしいご飯を食べようね。そしておいしいリンゴを食べようね。

abn3 時間リレーマラソン

あおぞらホーム長 富沢正樹

10月26日、abn3時間リレーマラソンに参加して来ました。今年で3年連続3回目の出場となります。今年、中高生職員男子チームと小中学生チームの2チームで大会に参加しました。

この大会に参加すると、2年前に初めて参加した時の事を思い出します。初参加で勝手のわからない中、みんなが無我夢中で走り、仲間に必死でタスキをつなぎ、職員も子供も1つになって走った結果、部門1位を獲得し、賞品のお米100キロを愛育園で待つみんなに持ち帰り、達成感と一体感で胸がいっぱいになりました。

結果はともかく、今年もそんな、皆が全力で頑張る姿が見られるといいな。と、楽しみに大会に臨みました。

愛育園は、これまでたくさんのリレーマラソンに参加してきました。子供たちは、荷物運びの手伝いや、ベンチを広げて席を作ってくれたり、飲み物の準備を自然にやってくれます。競技の部分だけでなく、こういった所もできるのが愛育園の子供たちの素晴らしい所です。

そして、競技の方とはいうと、中高生職員チームは中高生4名(内1名は小学6年生)、職員2名の6人で3時間を走り切りましたが、なんと2回目の優勝を飾る事ができ、再びお米100キロを手に入れる事ができました。

リレーマラソンは、後半に行けば行くほど、辛くなっていく競技です。1、2周目と6、7周目は、当然、疲れ方が違うので、タイムが大幅に下がってしまってもおかしくはありません。しかし、そこを自分を奮い立たせて頑張る事ができるのが愛育園の子供たちなのです。

選手の一人のN君は、途中、腰を痛めてしまい、残念ながら4周目で大事を取りましたが、その穴埋めをしようと、高3のR君や、中3のK君、小6のY君までもが、後半にもほとんど変わらない

タイムで周回を重ねていきます。いつもながらの素晴らしいチームワークを見せてくれました。

「今年は優勝までは厳しいかな」という私の見立てを見事に打ち破っての優勝は本当にすごい事でありました。

また、小中学生チームの方も、よく頑張って走っていました。小学生にとって3時間という時間は非常に長いのですが、自分の番の時は思い切り走り、それ以外の時も仲間を応援する。そんな姿



(令和元年11月10日発行 月刊「円福」470号付録)

が多く見られました。

結果以上に、チームの為に本気になって走ったり、思いやったり、自分にできる事を一生懸命にやる事ができている事がとても嬉しく思います。これからも愛育園の行事がそんな成長の場となるようにしていきたいと思います。

3時間リレーマラソン



あおぞらホーム 倉島誠

10月26日に松本市で開催された、abn3時間リレーマラソンに参加してきました。今回でこの大会への参加は3回目となります。1回目は優勝、2回目は準優勝、それでいての今回の参加でした。正直、今回の大会はあまりいい結果は期待できないだろうと思っていました。台風19号の災害もあり、園でマラソン練習が出来たのは一回だけでした。練習不足に不安が残る中、6人の少数精鋭チームで今大会に挑みました。三時間も走りっぱなしと思うと気の遠くなる思いがありますが、いざ走ってみると、とても時間が経つのが速く感じました。高校3年生のR君は8月に高校野球生活を終えたばかりです。行事に参加するのも久しぶりだったR君にはどんな走りをしてくれるのかすごくわくわくしていました。いざ本番が始まると、R君、中学3年生のK君、N君、小学6年生のY君は、周りが驚くほどのスピードで走り抜け、2位のチームと4周差をつけてのぶっちぎりの優勝となりました。練習も出来なかった中でこんなにも一生懸命タスキを繋いで、タスキを渡す時は背中をたたき合って、「ナイスラン!」「がんばれ!」と言葉を交わすのがとてもかっこよく、輝いているなあと感じました。愛育園は、色んな行事がたくさんあって、どんな子でも一つ一つの行事に精一杯に取り組んでいます。行事を通して、社会性や、身の回りの準備、片付け、挨拶などの礼儀を全員が出来る姿が、見ているとすごいなと感じました。

三時間松本リレーマラソン

あおぞらホーム 金井雄大

10月26日、三時間松本リレーマラソンがありました。台風19号の影響で、園でのマラソン練習は、一度しかできていない状態でマラソンに臨みました。

マラソン開始前には、ゲストで芸人のニッチローさんが来ており、子どもたちは記念撮影して、楽しんでいました。マラソンが始まり、ファミリー部門の愛育園Aチームの最初のランナーは、中学生のT君が走りました。とても速いペースで、走りあつという間に次の子に回りました。チーム全員が、5分付近のタイムでずっと繋いでいました。私も自分のペースを考えながら、それでも

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

なるべく早く次の人に繋げるよう走りました。三時間リレーマラソンといっても、実際に走ってみるとあっという間で、6人のチームで、1人6周すれば終わっていました。最後のゴールでは、チーム全員で手を繋ぎながらゴールしました。

愛育園の成績は、ファミリーの部では優勝、小中学生の部では6位でした。それぞれ景品をもらい、子どもたちも嬉しそうでした。

あおぞらホーム 3時間リレーマラソン 児童感想



昨日3時間リレーマラソンがありました。いっぱい走りました。小学生は6位でした。そして、その日は26日だったのでりんご5キロをくれました。中高生は1位だったので、10キロのお米を10個くれました。楽しかったです。

(小4 K・F)

今日、リレーマラソンがありました。今回はスペシャルゲストで「ニッチロー」が来ました。とても嬉しかったです。スパイダーマンなどたくさんいました。僕は五回走りました。とてもきつかったです。結果は、中高生チームが優勝でお米100キロ、小学生チームは6位でりんごを5キロ貰いました。とても嬉しかったです。みんなと力を合わせて6位になれてよかったです。

(小6 R・N)

10月26日の午前11時から14時にかけて、松本リレーマラソンがありました。去年は準優勝だったので、今年は優勝したいという気持ちがありました。ぼくのチームは、ファミリーの部で出ました。まず開会式がありました。今年のゲストはモノマネ芸人の「ニッチロー」でした。ぼくは、生でニッチローに会えたので嬉しかったです。その後に体操をやりました。次にいよいよマラソンが始まりました。ぼくは、第4走者でした。ぼくはタスキを受け取るまでは少し緊張していました。だけど、走ってみると緊張が取れました。ぼくは、たくさんの人を抜きました。一周目のタイムは4分58秒でした。ぼくたちは最初から飛ばして1位でした。2周目も1周目の記録と同じでした。タイムが落ちなくて良かったです。3周目は1, 2周目よりも速く走れました。4分54秒でした。その後も走り続け、6周目は最後だと言われたので必死に走りました。走っていない時はキノコ汁やおにぎりを食べました。とてもおいしかったです。ぼくたちは2位と差をつけて、優勝しました。ぼくはインタビューを受けました。だけど、緊張して言葉が出て来ませんでした。ぼくたちは優勝

(令和元年11月10日発行 月刊「円福」470号付録)

したのでお米を100キロ貰いました。あと、抽選で一番最初に引いたら702番でした。これは小学生チームの番号でした。なので、お米を14キロ貰いました。他にもシナノゴールド5キロなどももらいました。今日はとてもいい日になりました。

(小6 Y・Y)

まごころホーム 3時間リレーマラソン 児童感想

松本3時間リレーマラソンに今年も行きました。練習がまったくできなくて「本当に大丈夫のかな？」と心配していましたが、自分の全力を出せて良かったと思いました。私は、「小中混合の部」に出ました。みんなで、協力して、走り終わった人に水分を渡したり、走る部分だけでは無く、違う部分でも協力出来て、とてもいいなあと思いました。その他にも楽しいことがたくさんあったので、最高の思い出になりました。走り終わったあとのご飯もとてもおいしかったです。また来年も行きたいです。

(中1 M・M)

今日は、3時間松本リレーマラソンに行きました。初めに、準備たいそうをしました。10分くらいいたら、1人目が行きました。1人目は、Rくんが行きました。すごい早くかえてきたので、びっくりしました。私は、6番目に走りました。2kmより短いのに、すごい長くおもいました。1回目のタイムは6分28秒でした。次の人に、バトンをわたして、ベンチにもどったら、飲み物をくんでくれて、わたしてくれたのすごいうれしかったです。2周目も、走りました。2周目はどんどんつかれてきたけど、優勝をしたかったので、がんばって走りました。タイムは、6分21秒でした。1周目よりも、はやくなつてうれしかったです。3周目も、走りました。3周目は、すごいつかれていたけど、最後まで走りました。タイムは、6分36秒でした。少しおそくなってしまいました。最後は、Kちゃんが行きました。3時間リレーマラソンの門をぬけるときに、チームみんなで走ってゴールまで行きました。Kちゃんは、5分くらいでかえてきたのすごいうれしかったです。結果6位でした。あおぞらチームは、30周以上走って、優勝でした。とてもすごかったです。小学生チームは、28周でした。ひょうしょう式で、6位も発表されて、シナノゴールドを5kgもらいました。とてもうれしかったです。あおぞらチームは優勝で長野コシヒカリを100kgもらいました。10kgのを10こもらいました。ご飯でたくさん食べたいです。ちゅうせんでも14kgの米をもらったので、114kgの米をもらいました。うれしかったです。ほ



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

かにも、いろいろもらいました。とても楽しかったです。その後に、写真をとってもらいました。その後、お昼ご飯を食べました。とてもおいしかったです。とてもつかれました。でも楽しかったです。また、リレーマラソンに行きたいです。

(小5 M・N)

横田神社鳥居完成フェスティバル

あおぞらホーム 山田忍

10月6日に横田神社のお祭りに小学生達が参加しました。11時に神社へ集合し、地区内をお神輿を引いて練り歩きました。お神輿の掛け声を最初はみんな恥ずかしがっていましたがだんだん慣れてきたのか後半は積極的にお神輿引いたり大きな声で「わっしょい、わっしょい」と勇ましい姿を見せてくれました。そしてお昼はお弁当も出して頂き、午後は子ども相撲大会、ビンゴ大会と盛りだくさんの内容でした。スペシャルゲストに手相芸人の島田秀平さんが来て子ども相撲の行司を務めて下さいました、子ども相撲は男の子も女の子もみんな闘志を燃やし、迫力ある取り組みばかりでした、色々な景品も頂き楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。企画して下さいました地域の方々に感謝です、ありがとうございました。



(令和元年11月10日発行 月刊「円福」470号付録)

パンバイキング



あおぞらホーム 石龍成己

週末のお昼の時間を使い、調理の先生方主催でパンバイキングをやりました。食事のメニューは1週間前から張り出されるのですが、早く週末にならないかと小学生のみならず、中高生、職員もワクワクしながら当日を迎えました。食堂に入ると、ホテルの朝食バイキングのように食べ物や飾りつけがされていて、子どもたちも大興奮でした。パンバイキングということで、沢山のパンがあり、それを食べるのかと思っていましたが、それだけではなく、手作りのプリンやスープ、サラダやフルーツ等など、沢山の食べ物が並べられていました。小学生から順に、皿にとっていきみんなで頂きますして、おいしく食べました。一番驚いたこととしては、話しながら食事をしてしまい、落ち着かない時もある小学校低学年の席の子たちが、一切話をせずに黙々と食べていました。特にT君は本当に食べることに集中し、食べ終わると「おかわりいいですか？」と職員に言いに来ました。簡単には満たすことのできない子供たちの心を、食によってここまで満たしてしまう、調理の先生方の力は本当に凄いなと思いました。ぜひ、また何度でも企画して頂きたいと思います。沢山のご準備、ありがとうございました。

パンバイキング

まごころホーム 橋本雅

10月20日にパンバイキングがありました。前日には子ども達とどんなパンがでるかなど話しをしました。凄く楽しみにしていました。当日、昼食になると素早く食堂に向かい中に入ると歓声がわいていました。沢山のパンの種類やサラダ、スープ、飲み物、デザートが準備されていました。それぞれの好きな物を取り食べました。どれも凄く美味しく頂きました。何度もおかわりをして沢山食べました。子ども達もニコニコしながら嬉しそうに食べていました。美味しい、最高など話しながら食べていました。お腹いっぱいになるまで食べとても幸せでした。ご馳走様をした後に子ども達は、凄くお美味しかったまたやりたいと話していました。とても楽しく美味しいパンバイキングでした。沢山の種類を準備してくれた調理の先生方ありがとうございました。



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 石龍成己

先月の運動会も大成功に終わり、今月は愛育園祭に向けての準備が始まっています。あおぞらホームは、アトラクション系の露店を担当し、職員、中高生が一緒になって準備しています。昨年大盛況を収めたジェットコースターを、今回も作っています。昨年は初めてということもあり、試行錯誤から始まりましたが、今回は昨年経験したホームの子たちが積極的に動いてくれています。愛育園最後の2連休もたっぷり使い、昨年を上回る楽しさの愛育園祭になればと思います。

ここ数か月の変化としまして、ホームの小学生の数が、昨年の倍近くに増えています。昨年は少ない時で3名しかいませんでしたが、今は8名になりました。とてもホームが賑やかになってきて、明るい雰囲気になり、日々職員も活力をもらっています。下は2年生から上は6年生までいます。年の差にも開きがあり、お互いのことを気にしたりする子たちもいますが、もっと職員が個人個人と話をし、それぞれ自分の課題と向き合わせ、成長させられるように、もっと職員からの関わり合いをもっていければと思います。一人だけでなく、それぞれが頑張る雰囲気を作ればもっと活気さらに活気のあるあおぞらホームになっていくのではと思います。今は愛育園祭の発表練習を取り組ませています。やはりそれぞれが自分と向き合えず、まだまとまりのあるものになっていなく感じます。いっぱい声を掛け、全力でやろうという気持ちにさせ、本番を迎えられればと思います。今月もよろしくお祈りします。

まごころホームだより

まごころホーム 宮澤徳香

10月12日、日本列島を襲った台風19号は各地に甚大な被害をもたらしました。愛育園の子どもたちも一時避難をしました。すぐ近くの横田や塩崎で浸水しましたが、幸いにも愛育園は無事でした。避難から戻った子どもたちの表情には疲れが見られましたが、すぐに元気になっていつもの子どもたちになっていました。

千曲川の氾濫がもしもこの愛育園のすぐ近くだったら、元気な子どもたちの顔は見られなかったかもしれません。防災意識をもっと高めていかないといけないなと強く感じました。

11月4日はいよいよ「第22回愛育園祭」です。まごころホームでも子どもたちと一緒に準備を進めています。私は初めての参加ですので、今までのお祭りの様子を子どもたちから聞いて、とてもわくわくしています。みんなで一生懸命に力を合わせて準備して、大成功の「愛育園祭」となるようにしたいと思います。

11月に入り、朝晩、車の窓には露が降りています。もうすぐに霜に変わるでしょう。冷え込むようになっていきますので、子どもたちが体調を崩さないよう、支援していきたいと思っています。

(令和元年11月10日発行 月刊「円福」470号付録)

調理室だより

調理主任 伊藤慈子

10月20日に、食堂にて『パンバイキング』を実施しました。以前、園では年に1～2回ほど、バイキング料理を実施していましたが、ここ数年実施していませんでした。そのため、計画会議を何度も重ね、ホテルなどのバイキングを想像し、意見を出し合い、メニューや装飾品などの準備をしてきました。いつもの食事とは違う、『特別感』を意識して準備しました。子ども達には、各自お膳盆を取ってもらい、まずはパンコーナーから好きなものを取っていきます。その右に珍しいドレッシングをそろえたサラダコーナー、さらに右に進んでカウンターでは、スープコーナー・デザートコーナーがあり、その右には、いろいろ揃えたドリンクコーナーを用意しました。いろいろな種類があるので、まずは、少しずつ取っていき、好きなものを何度もお替りしていました。パンでは、ホイップサンドとホットプレートで焼いて出したフレンチトーストが人気でした。デザートはケーキやゼリー・プッシュ・フルーツと種類があるので全てを小さめに作りました。

食堂に入って来た瞬間、《わ～、すごい、いろいろある～、たくさん食べよ》と言ってくれたのがうれしく、みんなで頑張ってたかったなあ～と思いました。みんな満腹を通り越し、苦しいぐらいに食べてくれました。ただ、私達調理にとっては初めてのよう状況で挑んだバイキングでしたので、作る量が見当つかず、あれもこれもと取り入れているうちに沢山になりすぎてしまいました。次にバイキングするときは、もっと厳選して今回の反省点を生かしてもっと喜んでもらえるものを計画したいと思いました。

